

献辞

同志社大学政策学部長・総合政策科学研究科長 久保 真人

井上恒男先生は、本年3月31日をもって同志社大学をご勇退されることになりました。先生の教育および学術における大きな功績に敬意を表し、『同志社政策科学研究』第21巻第2号を「井上恒男教授退職記念号」として呈上します。

井上先生は、東京大学法学部を卒業後、1974年に厚生省（現厚生労働省）に入省され、2002年に退職されるまでの28年間国家公務員として、保健医療や年金など主に社会保障に関わる業務に携わってこられました。さらにこの期間、英国留学、英国日本大使館一等書記官など、海外での在学、勤務も経験されておられます。2003年4月に中央官庁での輝かしい経歴を踏まえ、同志社大学大学院総合政策科学研究科教授として第2のキャリアをスタートされました。

総合政策科学研究科では、公務員として勤務するかたわら大学院で学ぶ学生が多く在籍しています。そういった学生たちにとって、行政の第一線で活躍されてきた井上先生の授業や研究指導を受けることがキャリア上さらなる飛躍につながっていったことは想像に難くありません。総合政策科学研究科で教鞭をとっておられた17年間に、井上先生が指導教員を務められた学生だけでも6人が博士学位を取得しています。また、総合政策科学研究科と政策学部が一体化した2010年以降は、学部学生の指導にもご尽力されてきました。学部では研究の基本的スキルを学習する少人数クラスの授業を担当されていましたが、地域の福祉施設と連携したフィールドワークを实践、指導されるなど、学部学生にも変わらぬ熱心さで指導されていたことが印象に残っております。

研究面では、一貫して社会保障政策に関わる研究をおこなってこられました。その中でも、年金改革、地域ケアなど英国の社会保障政策全般に関わる論考を公刊され、それらは2016年に出版された『英国における高齢者ケア政策－質の高いケア・サービス確保と費用負担の課題』（明石書店）に結実しています。また、このようなマクロな視点だけでなく、国内では高齢者の自立支援や地域ケアネットワーク作りなどのミクロな視点にも研究の裾野を広げておられます。

社会的な活動でも、社会保障政策の専門家としての知識と経験を活かし、京都府や京都市、長岡京市など近隣の自治体の委員を務められ、健康保険事業や地域包括支援センターの運営などにご尽力されています。

今後とも、学部・研究科一同、変わらぬご指導をいただけるものと期待しております。

以上、井上恒男先生のご勇退を心よりお祝いしつつ、ますますのご活躍を祈念して、私からの献辞とさせていただきます。